

II - A - 4

卵巣摘出による行動薬理学的変化に対する
加味帰脾湯の作用

鐘紡（株）漢方研究所

○島村美智枝、西沢幸二、山下 明

【目的】 加味帰脾湯は精神不安、神経症、不眠症などへ適用される方剤で、その効能効果から近年、更年期の不定愁訴や婦人科術後の更年期様症状に対して臨床的に用いられている。我々は、卵巣摘出後1週間経ったラットを更年期障害モデルに見立て、卵巣摘出によって起こる変化とそれに対する加味帰脾湯の作用について検討した。

【方法】 Wistar-Imamichi rat ♀ (9-10週齢)を用い、卵巣摘出ラット (OVX)を作製した。手術翌日より加味帰脾湯エキス末 (KMK) を1日1回経口投与し、7日目に実験を行った。

Exploration test で情動の変化、Shock sensitivity test で痛覚閾値に対する作用、Step through test と 8 arm radial maze task では記憶に対する作用について検討を行った。

【結果】 Exploration test において OVX の ambulation は変化しなかったが、rearing 数は有意に減少し、KMK 1000 mg/kg 投与で rearing 数の減少が回復した。Shock sensitivity test では、OVX の flinch、jump、vocalization 閾値が有意に上昇したが、KMK はそれに対し 250 - 1000 mg/kg 投与で用量依存的に閾値を回復させた。Step through test では、OVX の ST 潜時は有意に短縮し、KMK 1000 mg/kg 投与で ST 潜時が延長した。8 arm radial maze task において OVX の正選択数は有意に減少し、誤選択数は有意に増加した。KMK は正選択数を増加させ、誤選択数を減少させた。

【考察及び結論】 不眠や不安、ほてり等を愁訴とする更年期症状の一因として、加齢に伴う内分泌変化が挙げられる。卵巣摘出によって情動及び痛覚閾値の変化、記憶学習障害が認められたことから、卵巣摘出後間もないラットは劇的な内分泌変化の途上にあり、更年期様症状に類似した変化を示したと考えられた。また、加味帰脾湯は卵巣摘出によって起きたこれらの変化に対して改善作用を示した。しかし、子宮重量の回復を伴っておらず、直接的なホルモンバランスの改善とは考え難いため、脳内神経伝達系の賦活あるいは何らかの作用によるストレスの緩和によるものであろうと推察された。